



チーム名		1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
 中央大学 RACOONS		10	7	0	14	31
 明治大学 GRIFFINS		10	14	0	10	34

1Q

雨が降りしきる中で行われた一戦。序盤から両チームのオフェンスが積極的に仕掛ける展開となります。

中央大はテンポよくショートパスを繋ぎ、明治ディフェンスを揺さぶります。結果、第1Q開始早々に中央大に先制のタッチダウンを許しました。

しかし、明治もすぐに反撃。#21 高橋がキックオフリターンで自陣42ヤードまで陣地を押し上げ、続く#15 新楽から#89金子へのパスで一気にゴール前へ。最後は新楽が自らエンドゾーンに飛び込み、同点タッチダウン。雨の中でも落ち着いた試合運びを見せました。しかし直後のKCで中央大学がピックリターン。不利なフィールドポジションからのディフェンスを強いられますがここをキックで押さえます。明治も次のオフェンスでキックを入れ同点。シーソーゲームの展開が続きます。

2Q

第2Q最初のオフェンスでは、#21 高橋が相手のディフェンス網を巧みにすり抜け、89ヤードを快走。雨を切り裂くかのような独走タッチダウンを決め、明治がこの日初めてリードを奪います。

その後、再び中央大にタッチダウンを許して同点となりますが、またも#21高橋のビッグゲインから前半残り1分、#5 宇野が落ち着いてエンドゾーンへ押し込み再びリード。

前半を24-17、明治がわずかに優位な形で折り返しました。

グリフィンス6戦目は、中央大学RACOONS





3Q

7点リードで迎えた後半。後半開始早々 #15新楽から #89金子へのロングパスが決まり、一気に敵陣へと攻め込む。しかし雨脚が強まる中、ボールが滑りやすくなる影響もあり、明治は自陣でファンブル。ピンチを迎えます。しかし、ディフェンス陣が粘りを見せ、最小限の被害で第3Qを終えます。両チームともに得点がなく、試合は緊張感を保ったまま最終クォーターへと突入します。

4Q

第4Q序盤、中央大が85ヤードのロングパスを通してタッチダウン。スコアは同点に戻り、勝負の行方がわからなくなります。それでも明治は集中を切らさず、残り9分。#15 新楽が #18 杉崎へロングパスを放ち見事キャッチ。このビッグプレーで流れを引き戻すと、#10 田村がフィールドゴールを確実に決め、リードを奪還。さらに残り5分を切ったタイミングで、#21高橋が再び切り裂くようなランでエンドゾーンに駆け込み、駄目押しのタッチダウン。終盤、中央大も懸命に追いましたが、34-31で試合終了。難しいコンディションの中でも冷静さを保ち、粘り強く戦い抜いた明治が、接戦を制しました。





◆中央大戦を振り返って

中央戦にて、選手にインタビューを実施しコメントを頂きました。ご協力頂きました皆様、誠にありがとうございました

◆インタビュー #18 杉崎 友則 (WR)



■中央大学と対戦した印象
春の試合でも感じましたが、DLやLBにいい選手が多い印象です。

■中央戦の反省
後半のファーストドライブでスコアできず、チームにいい流れを持ってこれなかったことです。

■次戦への意気込み。
トーナメントがかかった重要な一戦になるので、今まで積み上げてきたものを全て出して必ず勝ちます。

◆インタビュー #94 中里 礼温 (DL)



■中央大学と対戦した印象
ラインのデカさとパスの1発が嫌でした

■中央戦の反省
仕留めきるところで仕留めきれなかった、自分のプレーの甘さが出てしまったこと

■次戦への意気込み
秋シーズン大一番本気出します

◆インタビュー #15 新楽圭冬 (QB)



■中央大学と対戦した印象
DLにいい選手が集まっている印象だったのでパスオフENSEの精度が勝敗を分けると感じていました。高橋のランを止めに来る分、奥のゾーンが空いていることが多かったので自信を持って投げ込めました。

■中央戦の反省
自分含め、4年生の初歩的なミスが目立ちました。オフENSEのせいで流れを持って行かれてしまう場面が多く見られたのが反省です。

■次戦への意気込み。
前節の試合で出た課題を潰すとともに、一つひとつのプレー制度を完璧に仕上げます。最後は気持ちの勝負だと思っているので気迫で相手を圧倒します。



■次戦

2025年11月9日(日) 10:00 K.O. 横浜スタジアムにて東京大学との対戦です。

次戦は、接戦を勝利した勢いそのままに全日本大学選手権への進出に重要な1戦へと臨みます。

東大戦の勝利にむけて、試合会場をネイビーカラーで埋め尽くしましょう！

GRIFFINSを皆様の熱い応援でサポートしましょう！

Go ! GRIFFINS.